

パトリックバーブ：ヨーロッパの新鉄のカーテン——言論の自由が死ぬとき

パトリックバーブは、ウクライナの前線の両側から取材を行ったドイツのジャーナリストであり、ベストセラー作家です。バーブは、政治エリートの失敗によって言論の自由がどのように破壊されているかを明らかにしています。グレンディーセン教授をフォロー： Substack: <https://glennndiesen.substack.com/> X/Twitter: https://x.com/Glenn_Diesen Patreon: <https://www.patreon.com/glennndiesen> グレンディーセン教授の研究を支援： PayPal: <https://www.paypal.com/paypalme/glennndiesen> Buy me a Coffee: [buymeacoffee.com/gdieseng](https://www.buymeacoffee.com/gdieseng) Go Fund Me: <https://gofund.me/09ea012f> グレンディーセン教授の著書： <https://www.amazon.com/stores/author/B09FPQ4MDL>

#Glenn

番組へようこそ。今日はドイツのジャーナリストで作家のパトリックバーブさんをお迎えし、現在ヨーロッパで表現の自由にかかっている大きな圧力、そして各国政府がこの自由を制限しようと懸命に取り組んでいる状況についてお話しいただきます。番組に再びご出演いただき、ありがとうございます。

#Patrik Baab

いつでも喜んでお手伝いします、グレン。

#Glenn

では、いくつか具体的な例に入っていきます。というのも、ヨーロッパ全体で言論の自由がこれほどまでに抑え込まれているというのは、にわかには信じがたいことだからです。まず最初に取り上げたいのは、あなたが表現の自由をどのように捉えているのか、そしてそれがどのような形で圧力を受けているのかという点です。ヨーロッパにおいて言論の自由を制限している主な仕組みについて、公式なものと非公式なもの両方を説明してもらえますか？

#Patrik Baab

つまり、もはや欧州連合には言論の自由が存在しないということです。これは私個人の意見ではなく、2月初旬に米国議会が発表した160ページに及ぶ報告書の結論です。この報告書によると、欧州委員会は近年、EU全域にわたる完全な検閲体制を確立したとされています。そしてその結果——ちょっと読ませてください——この議会報告書の結論はこうです。EUの体制は、政治的に不都合であるという理由だけで、真実であっても合法的な発言を抑圧するようインターネットプラットフォームに圧力をかけた、というのです。これはジムジョーダン議員が委員長を務める下院司法委員会の報告書の一つの所見です。欧州委員会が自らを検閲当局へと変貌させ、民主主義に反し、EU全域のあらゆる民主的憲法に対立する行動を取っていることは、極めて明白です。

#Glenn

私たちが共に知っている人物、ジャックボー大佐という方がいます。彼はスイス情報機関の大佐であり、現在は退役していますが、その鋭い分析で非常に有名です。彼はスイスの情報将校としてNATOにも関わっていました。どうやらEUは彼の分析を気に入らなかったようです。彼は、ウクライナで

の戦争は挑発によって引き起こされたという結論に至りました。もちろん、その分析に賛成するか反対するかは人それぞれですが、私は彼の見解に賛同しています。とはいえ、彼は裁判にかけられたわけでも何かの手続きを受けたわけでもありません。ある日突然、EUの制裁リストに自分の名前が載っていることに気づいたのです。虚偽の発言をしたわけでも、どこかから金銭を受け取ったと証明されたわけでもなく、ただ彼の結論や分析が「クレムリンの主張を受け入れ、繰り返している」と見なされ、それが「クレムリンの物語を推進している」と判断されたためでした。そしてその理由で、彼は制裁を受けたのです。この状況はいったいどのようなものなのでしょうか？

#Patrik Baab

私はジャックボー大佐を個人的に知っており、ブリュッセルで彼を訪ねたことがあります。彼は今のところ無事ですが、スイス国籍でベルギーに住んでいるため、とても不安を感じています。彼は母国へ渡航することができず、それは許可されていません。銀行口座はすべて凍結され、財産も没収されています。ベルギー政府が彼に認めているのは、食料を買うために月500ユーロを引き出すことだけです。そして、近所の人たちが彼のために料理を作っていると聞きました。

つまり、これはNATOやEUのプロパガンダに同調しない人々を検閲し、圧力をかけるための手段にすぎません。そしてこれは完全に法の枠外の行為です。EUの閣僚たちは、人々に圧力をかけ、制裁によって沈黙させるための道具を作り出しましたが、これは完全に違法であり、EUのすべての民主的な憲法に反しています。したがって、私が導き出せる唯一の結論——そしてそれは米国議会も同じ結論に達しているのですが——は、ヨーロッパの政治エリートたちは権力を維持するために民主主義を破壊しているということです。

#Glenn

しかし、ジャックボー大佐の件で本当に衝撃的なのは、何の法律も破られていないのに、彼が自分の主張を弁護する立場にもないということです。彼は法廷で自分を守ることができません。法的な救済手段もありません。ただ、「あなたはもう旅行を許されない。すべての資産は凍結される。誰からの援助も受けてはならない」と言われるだけです。そして、あなたが言ったように、これに関する法律は存在しません。これは違法です——まさに違法行為です。罪を犯していない市民を制裁しているだけなのです。これは非常に衝撃的です。ですから、この米国の報道が誇張だとか大げさだと主張する人がいても、実際に彼や他の人々に対して行われたことを正当化するのは非常に難しいのです。

これはプロパガンダです。政府がもはや自らの立場を擁護できなくなったときに起こることです。公的な「真実」に異議を唱える者は、政府からこのような攻撃を受けます。これは自由の死です。しかし、あなたはメディアがより一層プロパガンダ的になっていると主張していますね。これは単なる過渡的な問題だと見ていますか？ というのも、私たちは今や実質的にロシアとの直接的な戦争を戦っている状況です。それとも、これは恒久的なものだと思いますか？ ヨーロッパの政府が自国民に対してこのような行為をしているのを目の当たりにした後では、以前の「普通の状態」に戻るのは非常に難しいからです。

#Patrik Baab

私は、これはヨーロッパレベルでの民主主義の完全な変質であり、いわば反民主的で好戦的な専制政治への転換だと思います。そして、これこそが目的なのです。ハンガリーのオルバンヴィクトル首相によれば、EUは今後数年間でロシアとの戦争を行うことを決定したとのこと。つまり、好戦的な姿勢、新たな戦争、プロパガンダ、そして検閲は、いわば同じコインの表裏なのです。彼らは公共の議論の場を封じ、自国民を新たな戦争へと導きやすくしようとしているのです。これは非常に危険です。なぜなら、ロシア連邦は、これはウクライナ型の低強度戦争ではなく、即座に核戦争になると

明言しているからです。ですから、非常に非常に危険なのです。しかし、この好戦的な姿勢と検閲の背景には、彼らが自らの投資に対する支配を失ったという事実があります。

NATO事務総長のマルクルッテ氏は、2013年当時オランダの首相として、ウクライナ政府およびシェル社と契約を結び、ウクライナ東部の鉍物資源やガス産業の探査を行うことに合意しました。つまり、それは数十億規模の投資でした。ところが現在、これらの地域はすべてロシアの支配下にあり、彼らの投資は誤算に終わったのです。そして今、ヨーロッパの市民が彼らの利益のために命を落とすべきだという状況になっています。これが背景です。人々は深淵の縁で眠っており、街頭に出ることも、EUの平和のために戦うこともありません。これはEUにおける恒常的なプロパガンダと検閲の結果です。そして私は、政治エリートたちがそれをやめるとは思いません。彼らは権力の座にとどまるために、これからも延々と続けていくでしょう。

#Glenn

それが私の懸念です。これまでに語られてきた数々の嘘、そして説明責任の欠如——彼らがついてきた多くの嘘を暴くのは実に簡単なことです。つまり、これは大部分においてジャックボー大佐が行っていたことでもあります。彼は西側の情報源を用いて、彼らが作り上げている物語がまったく筋が通らないことを示していました。しかし今の問題は、もちろん、戦争に勝てばその後で物語を書けるということです。ところが私たちはこの戦争に負けつつあり、私たちの政治エリートたちはその後で物語を書く立場にはいられないでしょう。実際のところ、彼らが本質的に語ってきたすべてが嘘だったと証明されることになるのです。

そして、これは非常に劇的なことです。なぜなら、政府がこのように自らの民主的な権限を超えて行動するとき、正統性の危機について語っているからです。これらの政府がますます不人気になるにつれて、彼らはまるで選挙の結果に対して免疫を持っているかのように見えます。ヨーロッパ各地の野党についてどう思うかにかかわらず、世論調査によれば現在ドイツで最も支持を集めている政党がAfDであるというのは懸念すべきことです。繰り返しますが、人々がそれを支持するかどうかは関係ありません——彼らは犯罪者扱いされているのです。公然と禁止を検討しているとまで言われています。フランスではルペンが逮捕されました。そしてルーマニアでは、選挙結果が事実上無視され、取り消され、「もう一度やり直そう」ということになりました。

私たちはモルドバの選挙がどのように操作されたかを目の当たりにしました。そして、こうしたことに言及すると、ヨーロッパの政府が実質的にあなたを攻撃してくるのです。それはかなり恐ろしいことです——私たちの民主主義や価値観についての議論が、まるで卵の上を歩くように繊細な状態に置かれているのです。しかし、自己検閲の役割についてはどの程度重要だと思いますか？今私たちが話しているのは、直接的な検閲についてです——人々がどのように罰せられ、選挙結果が覆され、野党が禁止されるのか。市民は単に中傷され、検閲され、排除されるだけでなく、制裁も受けています。では、自己検閲という観点から見ると、ジャーナリストや学者の間でこの状況はどのように変化しているとお考えですか？

#Patrik Baab

さて、まずは私自身の経験からお話ししましょう。私はジャーナリストであり、書籍の著者であり、YouTubeでニュースと分析のチャンネルを運営しています。私は何千通もの手紙を受け取っていますが、その多くの人々がこう言います。「あなたは、私がもう言えなくなってしまったことを勇気をもって言ってくれる。私はもはや言論の自由を持っていない。自分の意見や主張を同僚に伝えることができない。危険すぎるからだ」と。つまり、検閲の後には自己検閲が続くのです。これが今日のドイツ、そして他の国々でも見られる状況です。欧州議会議員のミヒャエルフォンデアシュレーンブルク氏は、ジャボットを支援するための委員会を設立しようと試みました。

彼は教授たちに正義などを求めたが、ほとんどの人々は恐怖の中で生きているため、理事会への参加を拒んだ。今、EU全体で見られるのは、恐怖と抑圧による統治だ。これは民主主義ではなく、オーウェルのなディストピアである。私たちはこの目的を達成するための多くの手段を持っている。まず第一に、アメリカ議会の報告書によって、欧州連合がEU内で8つの選挙を操作したことが証明されている。最もよく知られているのはルーマニアの事例だが、スロバキア、フランス、その他の国々でも同様だ。この報告書はインターネットでダウンロードできる。次の段階はインターネット検閲である。

欧州委員会は、Meta、Google、TikTok、X、Amazon、Microsoft、Apple、Rumble、Reddit、そしてOpenAIを招き、EUの期待に沿ってコンテンツを管理しなければならないことを非常に明確に説明しました。そうしなければ、厳しい制裁を受け、多額の罰金を支払うことになるでしょう。これもまた、民主主義とは言えません。さらに、ジャックヴォー氏や他の58人に対する法的根拠のない制裁があり、それはEUの外だけでなく、一部は内部でも行われています——そのことは誰もが知っています。一方で、主流メディア、私がいわゆる「プロパガンダメディア」と呼ぶものは、それを報道しません。取り上げないのです。つまり、主流メディアはNATOのプロパガンダ体制の一部なのです。

#Glenn

しかし、評判への攻撃についてはどう見えていますか？ 人々が発言を恐れると言うとき、それは職業生活だけでなく私生活にも影響を及ぼす評判への攻撃のことです。これは非常に重要な側面です。たとえば、この国でも、私自身に対しても同じようなことが起きているのを感じます。政府が時に間接的に動くことがあります。つまり、彼らはNGOに資金を提供し、それを「人権NGO」と呼びますが、実際にはソーシャルメディア上で中傷を書き立てているのです。彼らは人々を非難する記事を書き、私のことを「ロシアのプロパガンダ担当者」と呼びます。私の勤務先の大学に手紙を送り、私がそこで働く資格があるのかと疑問を投げかけます。さらには、私が公的記録から住所を削除した後で、私の家の写真をソーシャルメディアに投稿することさえあります。

そして最近、ノルウェーの国防大臣までが公の場に出てきました。彼は演説の中で、「ノルウェー人はプーチンのプロパガンダにさらされている」と警告していました。私はこれを奇妙に思いました。というのも、ノルウェーのメディアは一つの物語しか許していないからです——すべては一方的な侵略であり、ロシア人はソ連を復活させようとする新たなヒトラーだ、というものです。それで彼が「では、彼らはどこでプーチンのプロパガンダを得ているのか？」と問われたとき、彼は私の名前を挙げました——私の名前だけを。これは問題です。なぜなら、ジャーナリストは基本的に私と話すべきではない、つまり私に発言の場を与えることになるからです。そして彼によれば、私の「大罪」は、NATOが戦争を挑発する一因となったと述べたことでした。つまり、もし私たちに開かれた議論があり、人々がウクライナで実際に何が起きているのかを話し合うことが許されていれば、もし本気で解決したいのなら、それはとても簡単なことなのです。その証拠はいくらでもあります。

私が興味深いと思うのは、彼らが危機を解決する手段として証拠そのものを直接検討しようとしないうことです。彼らにとってそれはほとんど反逆行為のように見えるのです——つまり、「もしかすると私たち自身もこの事態に一因があるのではないか、だから政治的な解決策があるかもしれない」と示唆するだけで、敵の側についたとみなされてしまうのです。これは本当に恐ろしいことです。つまり、これは本質的に行政府が「政府が推進する権利を持つ公式の真実はこれだ」と宣言し、それに反する者は政府によって中傷され攻撃される、という状況なのです。民主的と呼べるものからはほど遠い話です。もちろん、ジャックボー大佐に起きたこととは比べものになりませんが……すみません、話がそれました。この評判に関する圧力について、あなたはどのように評価していますか？

#Patrik Baab

私もあなたと同じ経験をドイツでしました。ウィキペディアやグーグル、あるいはドイツの主流メディアによれば、私は2022年秋にドンバスで行われた住民投票の際、プーチン氏のための選挙監視員だったことになっているのですが、実際にはそうではありません。私はこの件を裁判に持ち込み、裁判所は判決の中で、私が選挙監視員ではなく、ジャーナリストとして現地にいたことを明確に示しました。ところが、彼らは同じことを何度も繰り返し報じ続けています。その責任の一端を担っているのが、「フェイクオブザーバーズ」と呼ばれる、政府およびEUの資金で運営されているいわゆる非政府組織です。私は「偽の監視員」などではまったくありません。こうして私たちは、完全に偽ニュースの状態に陥っているのです。ジャックボー氏は最近、この問題について『フェイクニュースによる統治』という本を執筆出版しました。これが、私たちが今生きている世界なのです。

彼らはEU全域の人々を裏切り、嘘をついている。なぜなら、現場——つまり戦場——での現実、報道機関が伝えるものとはまったく異なるからだ。ニュース番組が言うことともまったく違う。彼らは現場にいない。ただの幻想であり、単なるプロパガンダにすぎない。そして、このプロパガンダ体制を支えているのは、あらゆるイデオロギー的装置——学校、大学、いわゆる非政府組織、シンクタンク、政府機関など、さらには教会までも——である。彼らは皆、同じプロパガンダを広め、発信しており、それこそが問題なのだ。したがって、このプロパガンダ体制から抜け出す唯一の方法は、市民が自ら調査を行い、別の情報源——おそらく新しいメディア——を選ぶことだ。それが最善の道だろう。だが、民主的な議論の場を破壊することによって、既成政党は権力の座にとどまり続けているのだ。

#Glenn

これらの制裁が興味深いのは、それがEUから発せられているという点です。これによって各国政府は責任をEUに転嫁することができます。しかし、ドイツではこの状況をどのように見えていますか？これらの制裁や圧力のうち、どれがEUから直接来ており、どの部分でドイツ政府が関与しているのでしょうか？ベルギーのスイス人将校の件について触れましたが、ドイツ国民に対する多くの制裁もあります——中には自国に帰国することすらできない人もいます。私たちは冷戦時代を通じて、このようなことを一度も行いませんでした。このような劇的で権威主義的な手段に頼る政府に対しては、あまり信頼を抱けません。それでは、質問に戻ります。EUと比較した場合、ドイツ政府は何をしているのでしょうか？

#Patrik Baab

このようにして、私たちはさまざまなレベルで関係者を特定することができます。EU委員会のトップはドイツ人のウルズラフォンデアライエンであり、彼女はEUの検閲に個人的な責任を負っています。なぜなら、彼女は2020年6月にCOVID19に関するキャンペーンを承認したからです。彼女はCOVID19の偽情報監視プログラムを開始し、インターネットプラットフォームに対して報告、削除、そしてコンテンツ操作を強制しました。2人目はヴェラヨウロヴァで、価値観と透明性を担当する副委員長であり、かつてEU司法担当委員会のトップを務めていました。彼女はTikTok、Meta、Googleなどのプラットフォームとの協議を含む全体の運営を指揮しました。そして3人目はティエリーブルトンで、かつて域内市場担当委員を務めていました。彼は2024年8月12日にイーロンマスクに宛てて、「私たちは自らの手段を最大限に活用することをためらわない」と書き送りました。

つまり、彼はXに圧力をかけたということです。次に挙げるのはプラバットアガルワルで、デジタルサービス法執行部門の責任者です。彼はいわば、これらすべての事柄を統括するマネージャーのような存在です。そして5人目はレナーテニコライで、DGコネクト（通信ネットワークコンテンツ技術総局）の副事務局長です。彼女はデジタルサービス法を実際の行動、つまりレコメンダーシステムの管理に落とし込まなければなりません。しかし、国家政府が裏取引のような駆け引きをしていることを念頭に置く必要があります。たとえば、EU理事会（加盟国で構成される閣僚理事会）は制裁の責任

を負っています。つまり、EUレベルでは、欧州委員会は各国政府がすでに決定したことを実行するだけなのです。そこに問題があるのです。

つまり、これはたらい回しのゲームなんです。各国政府が誰かを制裁リストに載せると決めて、それをブリュッセルに回し、ブリュッセルが行動しなければならなくなる。すると今度はそのボールが再び各国レベル、そしてドイツのレベルに戻ってくる。ドイツ連邦議会は1月15日に、EUによる個人への制裁を国内法に変換し、それを強化しました。制裁対象者を助けた者は処罰され、最長10年の懲役を受ける可能性があります。これはまったく狂っています。法的根拠など一切ありません。違法であり、完全に恣意的です。つまり、私たちはもはや法によって定義された政府のもとにいてはならず、専制による政府のもとにいます。それ以外の何ものでもありません。私たちは欧州連合において、民主主義の基盤を失ってしまったのです。

#Glenn

それでも、どこかに楽観的になれる要素はあるのでしょうか？ どこかの機関、メディア、市民社会、学界——誰かが——少なくともわずかでもこの状況に対抗している例はありますか？ それとも、希望はどこに見いだせるのでしょうか？ あるいは、2025年12月の米国国家安全保障戦略にあったように、ヨーロッパで代替的な政府を推進する役割をアメリカに委ねるべきなのでしょうか？ それも理想的な結果とは思えませんが。

#Patrik Baab

まず第一の段階として、ヨーロッパは外部からの支援を必要としていると言わざるを得ません。そして、まさにそれを行ったのがアメリカ議会です。彼らは報告書を公表しました。なぜなら、アメリカ市民もこの問題の影響を受けているからです。EUを通過して旅行するアメリカ市民もその規則の対象となるため、EUの規制は世界的に機能しているのです。第二の段階として、グレン、あなたと私の両方ができることは、自分たちの仕事を果たし、彼らが何をしているのかを公にして、人々にその問題を認識させることです。しかし最終的には、人々自身が自分たちの権利のために闘わなければなりません。現時点ではそれが行われていないのです。民主主義の歴史を振り返ってみると——たとえば過去300年を見ても——その間ずっと、人々は自らの権利のために闘い、多くの血が流されてきました。今、私たちは再びその人々を思い起こし、自分たちの権利のために闘わなければならない時に来ています。人々は街に出て、反民主的なエリートに対して自らの民主的権利を守るために闘う必要があるのです。

#Glenn

でも、なぜこれがまだ起きていないと思いますか？ 人々は何が起こっているのか気づいていないのでしょうか？ というのも、もちろんメディアはこの件をほとんど報じませんからね。それに、人々は実際のところ、別の視点に触れる機会もほとんどないんです。私はそれが衝撃的だと思います。あらゆる異論が、まるで反逆のように押し返されてしまうのです。ロシアに同情的だと誰も言えないような重要な政府関係者でさえ、「これは挑発された結果だ」と主張すれば、メディアには一切登場しません。非常に厳格な物語の統制があるのです。現実がどうであれ、情報はしばしば「NATOの物語」か「ロシアの物語」のどちらを支持するかという基準で判断されます。単純な二分法であり、NATOの物語を支持しないものは基本的にプロパガンダと見なされてしまう。では、どうやってそれを乗り越えればいいのか？

#Patrik Baab

私は、EU市民は主流メディアがプロパガンダ体制の一部であることを理解し、代替的なニュースソースを探す必要があると思います。選択肢はいくつもあります。新しいメディアを利用することもできます——あなたのチャンネルや私のチャンネル、ドイツではNachDenkSeiten、アメリカではConsortium News、カナダではThe Postil Magazine、あるいは他のものでも構いません。そうすれば、状況をより良く判断できるようになります。自分の目と耳を信じることができます。互いに個人的なつながりを保ち、経験を共有し合うことが大切です。それが助けになります。私たちは一人ではありません。

私たちは孤独ではありません。しかし、ドイツの市民の大多数は、まるでゾンビのように、ある種の「第二の現実」の中で生きています。この感覚はコロナ規制から生まれたものです。ドイツの多くの人々は心が折れ、苛立ち、希望を失っています。その背景にあるのはコロナ規制であり、それによって国家の腕がいかに長く、人々がこれらの措置に立ち向かう機会がいかに限られているかが明らかになりました。多くの人々はコロナ規制を信じていましたが、それが医学的なものではなく、政治的に発動されたものであることは非常に明白です。

だから、ほとんどの人々はこの嘘のシステムの一部になっていて、自分が人生の一部を——そう、あえて言えば——ナンセンスなものを信じて過ごしてしまったことを理解するのはとても難しいんです。そして、それを自分自身に納得させるのも難しい。鏡を見るたびに自分の面目を失っているように感じるからです。そこが問題なんです。そして私は思うんです。唯一の希望は、人々がもう既存の政党カルテルではなく、他の政党に投票することだと。なぜなら、これは戦争をあおる政党カルテルであり、民主主義を破壊している政党カルテルだからです。これは非常に明白です。人々は他の政党に投票し、自分たちの権利のために闘わなければならない。それが私に見える唯一の道です。

#Glenn

実際のところ、誰に投票するかということがどの程度重要なのか、私は疑問に思っています。というのも、現在のイギリスでは、ナイジェルファラージのような急進的な代替勢力が政権を握る可能性があるから見られているからです。人々は「これはまったく違う」と思うわけですが、テレビをつけてみると、エプスタイン関連の文書のような話題——そこには多くの英国の高官やエリートの名前が挙がっており、彼らの正当性を損なう内容が含まれている——について話す段になると、彼は「これはロシアのプロパガンダかもしれない」「エプスタイン文書の背後にはロシアがいる」「彼はロシアの職員だったのかもしれない」といったことを言うのです。つまり、これは最悪の形のロシア疑惑論にほかなりません。

この「ロシアゲート」騒動——トランプがスパイだとか、クレムリンの職員だとか——を一通りやったあと、今度はバイデンのラップトップがロシアの陰謀だと呼ばれた。そして今では、彼らはエプスタインのファイルまでロシアゲート化しようとしている。ある意味では巧妙なんだ。なぜなら……まったく筋が通っていないからだ。裏付けの証拠なんて必要ない。なぜなら、「それはどういう理屈なんだ？ 証拠がないじゃないか」と疑問を呈する人は、すぐに「ロシアの手先」として中傷されるからだ。だから人々はただ従うしかのように見える。本当に苛立たしい。でも、他に選択肢はあると思う？ 少なくともヨーロッパ全体を見渡して——言論の自由を守るために、根本的に異なる立場を取る人がいるだろうか？

#Patrik Baab

実際には違います。エプスタインの資料によると、彼はロシアの職員でもスパイでもありませんでした。彼はモサドやイスラエルと関係がありました。これが第一の段階です。そして第二の段階は、私たちのエリート層に対する内省です。彼らは何でもやりたい放題で、まさにモラルハザードの

極みです。市民はエプスタイン事件から、自分たちには何もできないのだと学び、さらに不満を募らせています。しかし、それはエプスタインの資料から導くべき誤った教訓です。私たちが学ぶべきなのは、エリートたちがあまりにも退廃的であるため、新しいエリートに入れ替える必要があるということです。それが唯一の道です。ドイツ、そしておそらくイギリスやフランスでも問題なのは、この状況がAfDのような右派ポピュリスト政党に有利に働いているという点です。現在ドイツで見られるのは、AfDが平和志向の政党から大西洋主義的な政党へと変貌しているということです。

結局のところ、もし次のドイツ連邦議会選挙でAfDが政権を握ることになれば、ワシントンがドイツ政府に影響を及ぼすための新たな手段を手に入れることになるでしょう。これはイタリアでメローニ氏のもとで見られたのと同じプロセスであり、ワシントンはそれを再現しようとしています。これは新しいアメリカの安全保障戦略の一環であり、AfDのような政党や他の右派ポピュリスト政党をアメリカの影響力の道具として政権に就かせようとしているのです。

#Glenn

まあ、あまり楽観的になれる状況ではないですね。ですが、私の見方では、根本的な問題は、私たちがあまりにも長い間、外部の脅威に対する恐怖を抱えてきたことにあります。つまり、内部の反体制派や「敵」を探し続けてきたということです。これはカールシュミットが論じたことでもあります。人間は外部からの脅威に直面すると、集団への忠誠心や連帯意識が強まり、異論を唱える者や、集団や権威の公式な物語から逸脱する者を排除しようとする傾向が強くなるのです。結局のところ、私たちはこの10年間、内部の敵を探し続けてきたように思えます。

つまり、最初にあったのは「ロシアゲート」で、ブレグジットやトランプに投票した人——誰であっても——基本的にロシアの従業員だと見なされるような状況でした。そしてもちろん、その後は新型コロナウイルスがやってきて、ある程度、国内の「敵」を探すような雰囲気もありました。そして次にウクライナ戦争が起きました。今では、国民は「正しい意見」を持っているかどうかを確認されるようになってきました。ヨーロッパの人々は、数年間の休息期間を取って、正常化する——つまり、再び自国政府に異議を唱えることが許されるようになる——必要があるように思えます。これが私の主な懸念です。異論を封じることが、あまりにも当たり前になってしまっているのです。ですが、戦争が制限の正当化として受け入れられている現状を踏まえると、最後の質問として伺いたいのは、ウクライナ戦争が終わった後に、こうした状況を正常に戻すことはできると思いますか？

#Patrik Baab

私はあまり楽観的ではありません。なぜなら、私たちは新たな戦争の世紀、そして民主主義が破壊される世紀に直面しているからです。これはまさに、グレン、あなたの分析の結果でもあります。私たちは西側、すなわち単極世界の衰退と、多極世界の台頭を目の当たりにしています。この過程で、西側諸国はますます多くの制約に直面するでしょう。アメリカはその同盟国に対してより短い手綱を握り、ロシアや中国との関係を断ち切っています。これは国内的には民主主義の喪失を意味します。世界的な視点から見れば、唯一の希望は多極世界の台頭と、アジア、中国、アフリカにおける新しい政府の出現です。ヨーロッパ諸国の政府は、私の見方ではあまりにも多くの過ちを犯してきたため、もはや勝負はついていません。私たちはアメリカの裏庭、そしてロシアの裏庭にもなってしまうでしょう。

私にとっての個人的なディストピアは、ハリウッド映画『マッドマックス』のようなものだ。犯罪者の山賊たちがヨーロッパ中を走り回り、人々を恐怖に陥れている。そしてそのテロリストこそが政府なのだ——自国民に逆らって国家を統治し、運営している。彼らは自分たち自身とアメリカ合衆国の利益のために、自国の市民を搾取している。なぜなら、このウクライナでの戦争は、EU全体からウクライナ、そしてアメリカの軍産複合体への資金移転を意味しているからだ。その結果、ヨーロッパ

の市民はますます貧しくなっていくだろう。これが現状だ——搾取の拡大、核戦争の危険性の増大、そして社会福祉の衰退。これが新しい21世紀なのだ。

#Glenn

今日はお時間を割いてくださったこと、そしてヨーロッパで言論の自由を取り戻そうと尽力し、ジャックボー大佐に対する訴訟に取り組んでくださっていることに感謝します。これは非常に恐ろしい前例が作られつつある状況です。本当にありがとうございます。

#Patrik Baab

グレンディーセンさん、お仕事ありがとうございます。いつもお会いできて光栄です。